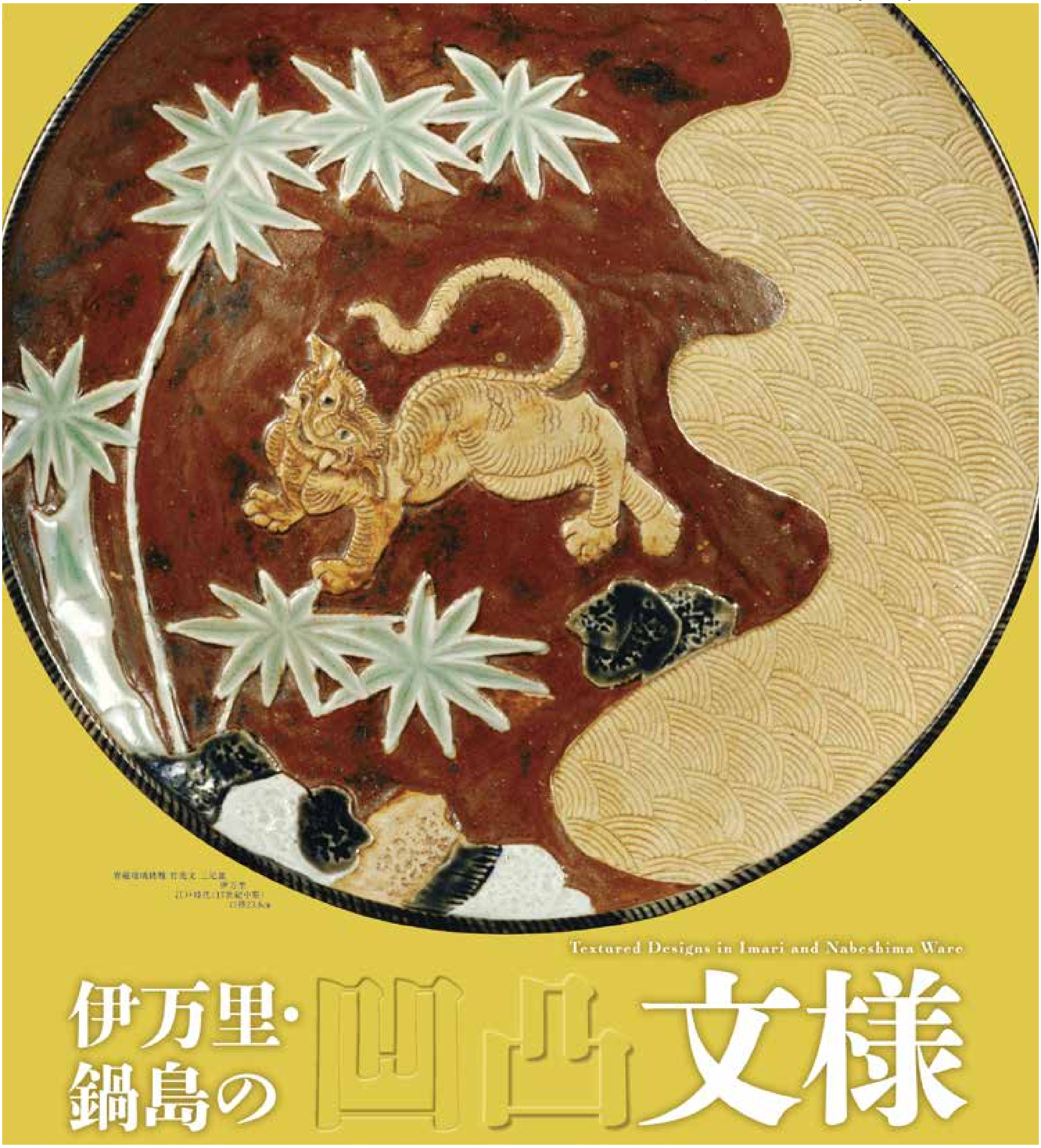
# プレスリリース




## 2023年10月6日（金）～12月21日（木）

今展では、やきものの表面に施された凹凸の文様に注目します。取り上げるやきものは、江戸時代初頭に佐賀・有田で日本初の国産磁器として誕生した伊万里焼と、その技術を応用して徳川将軍家への献上品として創出された鍋島焼。これらのやきものの施文方法は筆による絵付けが主流ではありますが、中には表面を盛り上げたり（型打ち・型押しなど）、貼り付けたり（貼付け）、反対に削ったり（線彫り・ヘラ削りなど）、刳り貫いたり（透かし彫り）という表現も見られます。

こうした凹凸文様は、起伏がわずかであったり白地に白の文様であったりするために、画像はもちろん肉眼であっても絵付けによる表現に比べると視認しにくいもの。しかしながら、凹凸文様をあらわすための技法は、型の準備や、ヘラや鉋などの工具の使用など、伊万里焼や鍋島焼の基本成形技法である轆轤挽きだけでは完成しない、ひと手間もふた手間も掛けられ、高い技術力も要するものです。伊万里焼・鍋島焼あわせて約80点の出展品から、一見気付きにくい、しかし繊細な凹凸文様をご堪能ください。

## 見どころ

### 見どころ その1

**様々な技法による凹凸文様が勢揃い！**

伊万里焼や鍋島焼にしばしば見られる轆轤型打ち成形によるものから、少々マニアックな型紙白絵や刺突文まで、様々な技法による凹凸文様をご覧いただけます。

### 見どころ その2

**館蔵の優品も登場！**

「青磁瑠璃銹釉 竹虎文 三足皿」（画像①）や「色絵 鳳凰花鳥文 鉢」（画像②）などは、同技法による類例が極めて少ない貴重な作品です。

### 見どころ その3

**白磁食器を特集！**

一見真っ白な食器、しかし、実は菊花文や松竹梅文、龍文など豊かな凹凸文様があらわされた白磁の伊万里焼約 10 点を特集します。

## 凹凸文様をあらわす技法—陰刻・陽刻とは？

凹凸文様をあらわす技法は、陰刻技法と陽刻技法に大別できます。陰刻は素地を彫り込み凹状の文様をあらわす技法。対して陽刻は、周囲を彫り込んだり、型で盛り上げたり、化粧土を重ねたりして凸状の文様をあらわす技法です。

**▶①青磁瑠璃銹釉 竹虎文 三足皿**

伊万里
江戸時代（17 世紀中期）
口径 23.8㎝

型による凸文様に合わせて4種の釉薬を掛け分け、竹虎文を表現した三足皿。同様の技法の三足皿は数点が知られるのみで全て意匠も異なる。凝った造形の名品。

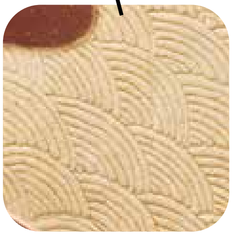
**◀②色絵 鳳凰花鳥文 鉢**

伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17 世紀後半）
口径 33.6㎝

柿右衛門様式の鉢。内外の一見余白と見える白地部分にも、陰陽刻により花文をあらわす。同様式の大鉢の中でも、凹凸文様を施したタイプは貴重。

**轆轤型打ち**

陽刻技法の一種。轆轤挽き後、型に押し当てて変形させる。型に凹状の文様をあらわしておくと、器面には凸状に文様が写る。



**線彫り**

陰刻技法の一種。素地が完全に乾燥していないうちに、先端の尖った工具を用いて彫り込み、線状の文様をあらわす。

**盛上げ＋線彫り**

素地上に素地と同質の粘土を重ね、表面を盛り上げている。葉脈や花芯などは線彫りであらわす。

## このほか今展で見られる凹凸技法の一部

（画像⑤）

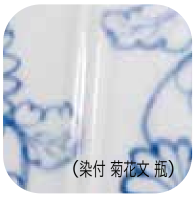
**型紙白絵**

陽刻技法の一種。文様の形に切り抜いた型紙を素地に当て、刷毛で白化粧土を重ねる。

（画像③）

**透かし彫り**

陰刻技法の一種。素地が完全に乾燥する前に、一部を刳り貫いて文様をあらわす。



（染付 菊花文 瓶）

**ヘラ削り**

陰陽刻技法の一種。瓶や猪口の側面、皿の見込周囲などをヘラで削り取る。畝を残して削った鎬文が定番。

（画像④）

**刺突文**

陰刻技法の一種。素地の乾燥前に先端の尖った工具で表面を突いて小さな穴をあらわす。

# 展示構成

## 特別展示室「凹凸文様を作る主な技法」

伊万里焼や鍋島焼では、凹凸文様を作るのに幾つかの主要な技法があります。8 点の作品から線彫りや透かし彫りといった陰刻技法と、貼付けや轆轤型打ち成形、型押し成形などの陽刻技法の手順を解説いたします。

◀③染付 唐草透彫網文 三足香炉
伊万里
江戸時代(17 世紀末～18 世紀初)
通高 9.8㎝

蓋部分を網目文や花文の透かし彫りで仕上げた香炉。唐草文と花文の控えめな絵付けや、小さく折り返した足も愛らしい優品。

## 第１・２展示室　「伊万里焼の凹凸文様」

17 世紀前期から 19 世紀にかけての伊万里焼の陰刻・陽刻技法の変遷を追うコーナー。約 60 点を展示いたします。

伊万里焼の誕生当初からの基本は轆轤成形。しかし、前期から造形に対する志向は芽生えており、ヘラや鉋などを用いた素朴な凹凸文様が見られます（「染付 菊文 瓶」）。

17 世紀中期に型による成形技法が確立されると、陽刻技法が飛躍的に成長（画像①）。17 世紀後半にかけて、技術的に成熟していきました（画像④）。

また、17 世紀後半から 18 世紀初頭に掛けては白磁食器が好まれた模様。無地もありますが、注視しなければ気付かないようなさりげない凹凸文様が施された洒落た食器が多数残されています（画像⑤）。

18 世紀以降は他の工芸品を模した形状をはじめ、遊び心溢れる伊万里焼が残されています（「色絵 壽字花唐草文 樽形水注」）。そのリアリティを支えたのも細かな凹凸文様でした。

◀染付 菊文 瓶
伊万里
江戸時代（17 世紀前期）
高 25.8㎝

胴部にヘラ削りによって鎬文を施した瓶。初期の伊万里焼には鎬文を有する瓶や猪口がよく見られるが、本作のような大型品は少ない。

▶④白磁 龍虎文 瓶
伊万里
江戸時代（17 世紀後半）
高 26.2㎝

茶筅形を基本に、口部は柑子口に、高台は六角に端正に整えた瓶。胴部には型で龍虎文をあらわし、地は刺突文を施す。

▶⑤白磁 菊花文 猪口
伊万里
江戸時代（17 世紀後半）
高 5.8㎝

型紙白絵で菊花文をあらわした猪口。白地に白の装飾を加えた繊細な作例である。器壁は光が透ける程に薄く、軽い仕上がり。

◀色絵 壽字花唐草文 樽形水注
伊万里
江戸時代（18 世紀前半）
高 18.0㎝

結樽を模した形の水注。松葉を貼付けして松樹をかたどった把手や、型押しによる板の合わせ目や箍など、丁寧な作行きである。

## 第２展示室　「鍋島焼の凹凸文様」

鍋島焼の多数派も、轆轤成形による円形の深皿。しかし、前期には型打ち成形による凸文様を伴うものが少量見られ、江戸時代を通じて製作された青磁にも型打ちや型押しなどによる作例が残されています。約 15 点を展示。

◀⑥色絵 七宝菊文 稜花皿
鍋島
江戸時代（17 世紀後半）
口径 21.3㎝

轆轤型打ち成形により稜花形とした前期鍋島の優品。全面に葉形の凸文様をあらわし、線描きを加えて七宝文としている。

※画像①～⑥および展覧会ポスターの写真データ等をご用意しております。ご入用の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。また、ご取材も随時承っております。お気軽にお問合せくださいませ。

## 展覧会情報

| | | |
|---|---|---|
| **名称** | ： | 伊万里・鍋島の凹凸文様 |
| **会期** | ： | 2023 年 10 月 6 日（金）～ 12 月 21 日（木） |
| **会場** | ： | 戸栗美術館 |
| **所在地** | ： | 東京都渋谷区松濤 1-11-3 |
| **開館時間** | ： | 10:00 ～ 17:00（入館受付は 16:30 まで）<br>※金曜・土曜は 10:00 ～ 20:00（入館受付は 19:30 まで） |
| **休館日** | ： | 月曜・火曜<br>※ 10 月 9 日（月・祝）は開館。 |
| **入館料** | ： | 一般 1,200 円 / 高大生 500 円<br>※中学生以下は入館料無料。<br>※ 10 月 14 日（土）は創設者 戸栗亨のメモリアルデーのため、無料開館いたします。 |
| **交通** | ： | 渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分・地下鉄 A2 出口より徒歩 12 分<br>京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分<br>※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。 |
| **同時開催** | ： | 『江戸時代の伊万里焼―誕生からの変遷―』（第 3 展示室）<br>『田渕哲朗作品展―陶と磁　二つの世界に遊ぶ―』（やきもの展示室） |

## 展覧会紹介文

■ 28words

繊細な凹凸文様の施された伊万里焼や鍋島焼約 80 点を展示。

■ 98words

伊万里焼や鍋島焼には絵付け以外にも、貼付けや型による浮き文様、線彫り、透かし彫りなど、様々な凹凸による文様が施されたものがある。一見気付きにくい、しかし繊細な作例約 80 点を館蔵品から厳選して展示。

## 会期中の催し物

**展示解説**
**『伊万里・鍋島の凹凸文様』の見どころ**

2 階展示室にて、主な出展作品の見どころをご紹介いたします。
■ 10 月 21 日（土）・12 月 9 日（土）　各日 14:00 ～（約 45 分）
■参加費無料（要入館券）
■予約不要

**ラウンジ & ギャラリートーク**
**「伊万里・鍋島の陰刻・陽刻技法とその変遷」**

前半は 1 階ラウンジにて伊万里焼と鍋島焼に見られる陰刻および陽刻の技法とその変遷を概説し、後半は 2 階展示室にて展示解説を行います。
■ 11 月 27 日（月）　14:00 ～（約 120 分）
※当日はご予約の方のみご入館いただけます。
※ 13 時 30 分開館、17 時 00 分閉館です。
■先着 30 名様
■参加費　一般 1,500 円（税込）（入館券を別途お求めください）
年間パスポート会員 1,200 円（税込）
■要事前予約

## 次回展予告

**花鳥風月―古伊万里の文様―**

**2024 年 1 月 7 日（日）～ 3 月 21 日（木）**

花・鳥・風景・月を描いた古伊万里、約 80 点をご紹介いたします。

**色絵 花鳥文 輪花皿**
伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17 世紀中期）
口径 20.4㎝

## お問い合わせ


公益財団法人 戸栗美術館　　広報担当 宛
〒 150-0046　東京都渋谷区松濤 1-11-3
TEL：03-3465-0070　FAX：03-3467-9813　E-mail：kouhou@toguri-museum.or.jp
公式サイト：http://www.toguri-museum.or.jp/